

## パーク雪合戦終了後のルール改正に関して 専門委員レポート①

### ◆センター90cmについて

- ・いわゆるガチンコは起こらなかった。 →チームとしては戦略的な意図で体験の狙いの段階と見る。  
戦略的には復活するのでは。
- ・審判的には ゆるい試合の流れになるので心理的に楽。  
→ただし、ロブが極端に減り、ストレートの割合が圧倒的に多くなり  
1シェル、2シェルからの同時側面へのストレート球の判定は  
難しくなる事が予測される。(本番は雪シェルに雪球となる為)

### ◆コート36mについて ※道央は従来から36m 実施の為 基本賛成の立場で

- ・エンドライン～バックライン間の2m 削減について  
→利点としては バックスの補給が楽になる。(1人でも可能)  
→審判目線では、バックスの攻撃参加(最近の傾向)により
- ・同じく2シェルの位置について  
→特筆は、センターに入る傾向が減った分、レディースの試合が  
3試合実施したが3セットとも引き分け、1人もアウトにならなかった。VT戦が増える傾向にある事が懸念される。
- ・試合の傾向として  
→7-6、6-5といったハイスコアのゲーム、3セットまで行く試合傾向が増えた。(道央HP試合結果を参照ください)  
同じパターンの試合が多く、観客手にみてもエキサイティングなゲーム進行ではなくなった感がある。

### ◆今後の検証についての提案

- 90cm の検証を増やす事と同時にそのほかの検証も必要では
- ・1シェルの位置 従来の位置でも良い
- ・2シェルの位置と、バックライン、フラッグポールの位置検証  
※2シェルの位置、バックラインから離す2m→3m など  
※バックラインの位置、 現行案6、7m、8m も検証  
※フラッグの2シェル並行位置を検証

センターシェルターを90cmに変更した結果、スタート時のガチンコは大幅に減った。これについては当初の目的のとおりになったと思う。

しかし、戦術の選択肢が少なくなったことに伴い単調な試合が多かったと思われる。センターを90cmにし、さらに1シェルを外側に移動したことにより、かなりストレートの射線が通るようになった。それに伴い、各チームの投げる球のストレートの割合が相当に多くなった。スタートでセンターを取ろうとしても相手チームが、コントロールのよい場合、かなりの確率で阻止されていた。

以前は、センター取る相手を阻止する場合、スタート直後に球を投げアウトにするのが定石であったが、90cmの場合、スタート直後には投げず相手がシェルターの直前に来た時点で狙い撃ちするほうが確実である。

また、射線がとおるようになったことにより、低い軌道でのストレートも投げられるようになり、スタートでセンターを狙う場合、以前より選手が警戒しなければならない範囲が上下に広がった。さらに、シェルター手前から滑り込むようにしてシェルターを壁にしてシェルターに入る方法も、横からの攻撃をかわすことが出来ないため、これもセンターを取ることが難しくなった要因であろう。

よって、ハイレベルの試合においては、スタート時にセンターを取るチームはほとんどいなくなるであろう。今回のパークでは旧ゼッケンを改造した球を使用した為、雪球よりも軽く、コントロールもよくない状況であったにもかかわらずこの状況であったので、雪球の場合もっと顕著に表れると思われる。

1シェルを外側に移動したことにより、選手からはやはり左利き有利の声が多く聞かれたが、実際の試合で左利きが活躍する場面は今回の大会では見られなかった。この点については検証会での見解がよかったのではないだろうか。

ゲーム中のストレートもかなりの割合で増加した。特に増えたのがシェルターの横側を狙うストレートである。今回のパークでは、木のシェルターに布製の球を使用したのも、音によりシェルターに当たったことを判断することが出来たが、雪のシェルターに雪球を使用した場合、判断することはかなり難しいであろうと思われる。

これは、当初の「ミスジャッジを減らす」という目的から大きく外れることとなり、さらにミスが増えることになるのは間違いないであろう。夏の壮瞥役場前での検証会でも意見したが、経験や技術のある審判員でもシェルター横のワンタッチを正確に判断することは不可能に近い。シェルターのサイズや位置を変更したことにより、ミスが起きやすい状況が生まれることは、本末転倒ともなりかねないのではないだろうか。

今回のパークの試合結果で多かったのが、スコアレスな試合である。決勝トーナメントにおいてもそうであったが、勝敗にかかわらずどのチームも7人～5人残っている試合が多かった。慣れないフォーメーションや、合同チームが多かった等の理由もあるであろうが、アウトが少ない試合が多く、見ている側からも物足りなさを感じる声が多く聞かれた。審判をしている人間からも同様に物足りなさを感じる声が聞かれた。

さらに女子の試合においては3セットすべて7対7でVTの試合や、6回連続7対7となったチームも見受けられた。新ルールを採用した場合の女子の試合方法については別途検討が必要ではないだろうか。

その他のルール変更について。セーフコールについては概ね理解も出来ていたようで積極的なコールがあった。今後も積極的なコールが増えていけばよいであろう。フライング・中断後の再開についても理解は得られたと思う。今回の大会においてはどちらも該当がなかったので実際に行われた際の欠点等があるかどうかは不明である。現時点で重大な欠点もないことからこれらについては継続して検証していくことが望ましい。

今回の大会をとおして感じたことは、以前よりもスピード感であったり、駆け引きの面白さに欠けたものであった。不慣れなコートであったことも要因のひとつであろうが、戦術の選択肢が狭まりストレートの割合が多くなったことが大きいと思われる。現に大会結果は、優勝こそ昭和新山チャンピオンのASSC が主体のチームであったが、準優勝は道央でも屈指のストレート主体のチームであった。これはやはり、以前の雪合戦からガチンコだけをなくしたものと、到底かけ離れたものであった。

さらに前述のとおり、シェルター横側のストレートに対するミスジャッジが増える結果では、ミスをなくす為の改正とは言えないであろう。実際の改正前の選手サイドからの意見も、ガチンコに対するミスジャッジよりもその他のミスジャッジに対する不満が多く感じられる。

今後もコートやシェルターに関する改正については、より多くの検証を行い、たくさんの意見を聞いていく必要があるのではないだろうか。

一番たくさんの人が集まり意見が聞ける、昭和新山の大会においての検証を実施することがよいのではないかと思われる。

## 道央ブロック【検討課題の提言として】

- ルール改正は概ね賛同意見が多く、コート規格については詳細の部分にさらなる検証を希望する声が多い。（各シェルター、フラッグ、バックラインの位置など）
- ルール改正のポイントとして、センター混戦ジャッジ解決が根本のようだが、選手の声はセンターの判定より、試合中のジャッジに対する誤審の声の方が多い。  
26回大会改訂案では、シェルター側面へのジャッジ機会が増える事で、よりジャッジが難しくなる傾向が懸念され、コート規格変更のポイント、同じく審判ポジション、スキルアップの方法も検討されるべきかと提言する。